

## 年頭所感



沖縄県医師会 会長 安里 哲好

明けましておめでとうございます。今年も会員の皆様にとって健やかで実り多い年でありませうよう祈念します。

2019年12月、中国武漢で発症した新型コロナウイルス症（コロナ）は瞬く間に世界に拡大し（日本での感染者1号は2020年1月、沖縄では2020年2月）、世界を震撼させました。その後、新型コロナ感染症は2023年5月8日より感染症法上5類に位置づけられました。2023年12月発表の時点で1定点当たり1.35人と全国最下位で、収束に向かいつつあります。その間、世界の累積感染者数は7億7,213万8,818人（累積死者数は698万5,964人）（2023.12.6時点）、国内の累積感染者数は3,380万3,572人（死者数は7万4,694人）、沖縄の累計感染者数は58万3,707人（死者数は1,025人）でした（2023.5.8）。歴史的に、新型インフルエンザは発症後2～4年持続し、ワクチン接種に加え自然感染も加わり、広範囲の集団免疫を得て、収束から季節型のインフルエンザに移行する傾向があるようです。更なる変異株による感染拡大や重症化は生じないよう望みたい。しかしながら、今回のコロナの経験を踏まえ、新興感染症に対する備えを常時整える必要性を医療界は等しく感じているし、第8次計画では「新興感染症等」に関する検討の場が設けられています。当初、未知なるウイルスと言われたコロナに、会員及び医療・介護従事者が一丸となって3年9ヶ月をも悪戦苦闘し乗り越えて頂いたことに、改めて感謝申し上げます。2023年11月に第62回地区医師会連絡協議会で、～新型コロナウイルス感染症を振り返って～「各地区の取り組み及び今後の感染症等への

展開～課題」について協議しました。多くの素晴らしい発表・報告や意見交換がありました。今、沖縄県医師会は「新型コロナウイルス感染症対応記録集」を編纂中です。

九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会にて（2023.11.25）、沖縄県医師会は日本医師会に対して、2024年度の「トリプル改定」に向けての基本方針と都道府県医師会及び各地区医師会で日医をバックアップする方策を問いました。日医から武見敬三厚生労働大臣に対し（2023.10.5）、「食材料費・高熱費等の物価高騰に対する財政支援に関する要望」を手交し、その中で（1）入院患者・入所者への食事療養費等に対する補助金での財政支援、（2）医療機関・介護事業所等における光熱費等の物価高騰に対する交付金での財政支援の継続の2点の継続を求め、実施されることになりました（令和5年11月2日閣議決定）。それに基づき、沖縄県医師会は12月1日、「医療機関への支援に関する{重点支援地方交付金}の活用について」の、①光熱費関係②食材料費関係の要望書を、令和4年度・5年度の九州各県配分に比較して沖縄県が極端に少ないことを示す資料も添付し、県知事、県議会議長及び各会派へ手渡しました。

日医松本吉郎会長は岸田総理大臣に対して、春闘で平均賃上げ3.58%、人事院勧告で3.3%の上昇が示されており、医療・介護就業者数約900万人（全従業員の13.5%）に対して、公定価格（診療報酬）の引き上げを通じて賃上げに対応することが地方経済の活性化や地方の医療提供体制の充実に繋がると述べ、令和6年度診療報酬改定に向けて、原資となる適切な財

源の確保を要望されています。県医師会は各地区医師会と連携して、県選出の国会議員に「秋の経済対策、診療報酬改定に向けて」を要望しました。

今年も、「県民と共に歩む医師会」、「地域医療の更なる充実」、「魅力ある医師会づくり」の三本柱を掲げ邁進して行きたいと思えます。

さて、1980年に沖縄県は男女とも平均寿命日本1位を誇っていましたが、2020年には男性が43位、女性が16位にまで大きく後退しました。2020年の内容は今年再度分析する予定ですが、2015年に分析した際に、平均寿命順位後退の多くの要因は65歳未満働き盛り世代の健康の悪化に起因しました。その中身を分析すると、高血圧関連疾患が1位、自殺が2位、大腸がんが3位、女性特有ながんが4位、不慮の事故が5位、肺がんとアルコール性肝臓疾患が各々6位でした。本会では「働き盛り世代の健康づくり・死亡率改善」を最重要課題として、今期は「適切な血圧を管理する地域社会づくり」等、4つの施策を展開して行きます。また、働き盛り世代の健康づくりの中心的役割を担う産業医部会の活性化や5社協議（沖縄県・沖縄労働局・沖縄県医師会・全国健康保険協会沖縄支部・沖縄産業支援センター）を更に継続強化し、健康経営を推進する中小企業を拡大して行きます。一方、大腸がんを中心に予防・早期発見（二次精査受診率の向上）・早期治療や子宮頸がん対策としてのHPVワクチン導入を積極的に推進して行きたいと思えます。

勤務医部会と女性医師部会の協力で若き医師の医師会活動を促すため「沖縄県医師会組織強化検討委員会と若手医師ワーキンググループ」を立ち上げ、琉球大学病院の教授会に出席し卒後5年目以内医師の加入を勧めると同時に、県立病院・公立病院、民間の臨床研修病院等にも同様なアプローチをしています。地区医師会等入会率65%以上及び地区医師会等医師会員の日医入会率85%以上を目指したいものです。

警察医部会と県警との協力の下に「医療従事者の安全を確保するための対策検討委員会」を

会内に設置し、諸問題を取り上げ、可能な限り適切な対応を進めて行きたいと思えます。また、死体検案をする医師、特に若き医師の確保・協力がとても重要です。

一方、大きく変わりつつある医療制度の中で、一番危惧するところは、医師の働き方改革です。医師の健康確保をしながら、地域医療（救急医療・周産期医療・脳神経外科医療等）を継続し、加えて医療・医学の質の維持・向上に取り組む必要が有ります。しかしながら、各医療圏や診療科において、診療制限が生じる可能性が有ります。県民や地域住民へ、その背景を踏まえた説明が必要だし、理解と協力が望まれます。特に沖縄県においては、救急搬送件数は1施設あたり全国1.9倍、時間外の救急外来受診件数は全国の3.1倍ととても多く（生活背景が時間外受診に影響を与えている可能性も高いが）、適正な救急外来受診を県民・地域住民に対して、県行政・マスコミと共に訴えて行きたいと思えます。

また、我が国は（2007年）、沖縄県は20年遅れ（2018年）で、超高齢社会を迎えました。そのような社会的な背景の中で、「8次医療計画」、「介護保険事業計画」、「地域医療構想」、「外来機能報告制度」、「かかりつけ医機能報告制度」、「医師の地域偏在・診療科偏在」、「医療・介護の人材不足」、「必要な薬剤の供給停止や高価格の薬剤問題」、「医療DXの推進」、「新型コロナを含む新興感染症対策」、「高騰する光熱費、材料費」と多くの問題・課題を抱えていますが、それらに具体的に関わると同時に、対策の推移を注視して行きたいと思えます。

沖縄県で今後強化される必要が有る領域は、在宅医療の充実と介護（介護施設等）との連携及び離島医療の医師確保や働き方改革下の離島へき地の病院への医師派遣の継続です。診療所が少ない状況（中部医療圏43.8施設/全国77.2施設/10万人）で、どの様に在宅医療を展開するのか、病院に在宅医療部門の設置や在宅医療を専門とする診療所を拡大して行くか、訪問看護ステーションとの連携を強化して行く

か大きな課題です。令和6年度から、県行政の「保健医療部」が「保健医療介護部」に拡大します。地域（市町村レベル）での連携、県行政を中心とした組織間（医療界と介護領域）との意見交換が充実すれば、いざという時に顔の見える連携がスムーズに行き、お互いの垣根が低くなり情報交換や具体的な施策が容易になることを期待したい。

学校医の確保が容易ではなく、勤務医の協力を得たいとの医療圏・地区医師会も有りますし、学校医活動は診療報酬に加味しても良いのではという意見も有ります。また、全県下的に脳外科医が高齢化し、若い医師の育成が望まれるとの声も聞こえてきます。

今年の基幹病院建設予定は、琉大病院が今年末に竣工し2025年1月開院予定、那覇市立病院が2025年10月に開院予定、公立沖縄北部医療センターが2028年竣工予定です。また、県立中部病院の南病棟の問題、精和病院（精神科）の南部医療センター・こども医療センターへの統合に対しても積極的に関わり良い方向に進めて行きたいものです。

第2次岸田内閣の第2次組閣（2023.9.13）にて、医療関係・沖縄関係の閣僚が多く誕生され、幸甚の至りで御座います。武見敬三厚生労働大臣、宮崎政久厚生労働副大臣、自見はなこ沖縄担当大臣（地方創生、国際博覧会）、國場幸之助国土交通副大臣、そして比嘉奈津美参議院厚生労働委員会委員長におかれましては、健康にご留意され、国民・沖縄県民そして医療界のためにご活躍なされることをご期待申し上げます。

昨年コロナも落ち着き、沖縄県医師会16名は6年ぶりに台中市医師公会を訪れ、研究会・意見交換や懇親会をしました。言葉では表せないほどの歓待を受けました。今年3月に、札幌市医師会との意見交換会・懇親会を予定していますし、横倉義武日医名誉会長をお招きしての講演会（1.12）も予定しています。

令和の時代は国際的に不安定な時代なのか、ウクライナへのロシアの侵略、イスラエルとパレスチナ自治区・ガザの紛争・戦争、台湾海峡の不穏、北朝鮮の太平洋へのミサイル発射等、国際社会は混沌としています。それ故に、令和の時代の今、アジアの平和・世界の平和を強く希求したい、特に台湾海峡の平穏を祈念します。

沖縄は数百年・数千年来澄み切った青い空と七色に変化する海は永久に美しくあって欲しいし、加えて2024年元旦において「平和の島」と「長寿の島」を切望します。

沖縄は数百年・数千年来澄み切った青い空と七色に変化する海は永久に美しくあって欲しいし、加えて2024年元旦において「平和の島」と「長寿の島」を切望します。

